

## 久しぶりの藤内壁

2016.10.30 メンバー YT S夫妻 IO KO (記)

久しぶりに藤内壁に行った。早朝に鈴鹿スカイラインのトンネルを抜けたところにある駐車場で待ち合わせをしたが、午前6時前には満車になった。混雑の予想をして、前夜のうちに朝から来る合流予定の車1台分のスペースを確保しておいてよかった。今の登山ブームと紅葉シーズンが重なり人出はかなり多かった。帰りの道も四日市ICまで渋滞していた。

天気はよかった。しかし季節は裏切らず木枯らし1号が吹くなど冬の季節が足早にやってきていた。今までが暑過ぎたので寒さに体が慣れていない。

ところで、久しぶりの前尾根はペツルによるアンカー整備が進んでいた。さらにアイゼンによる削られたスタンスも目につくようになった。岩を人が登る以上、安全性の確保と自然状態の維持は相反することはしかたがないだろう。登攀に必要な装備にも変化が見られた。先行パーティが60mロープ1本を使っていたことや小型無線機でトップと交信している点もその一つ。こうした変化は、岩を登るというアルパインスタイルから身体能力によるスポーツ化と見たが如何であろう。よくスポーツクライミングとアルパインクライミングは違うという声を聴くが、インドアでなされるスポーツクライミングと天然岩のアルパインクライミングを比較すると、これからは天然岩でもスポーツ化が一層進むように思う。

自然物を天然物と見る目、畏敬的なものをご神体と見る目は昔からあった。今回、藤内壁を天然物として自然の風景の中に置いてみるとそんな実感が湧いてくる。必要な技術もスタイルの変化によって変わっていくべきものであることは言うまでもないことであるが、人が感じる自然への思いの違いを改めて知った気がした。

